

良夜の外、常の月夜成、其石燈籠杯とほすべからず、されども其所により深みたる木蔭は、月夜程聞きもの也、都而灯心を増してとぼす事も有べし、良夜に會を催す事、風雅の人ならでは無用の事也、四疊半にては短尺硯杯配合詩歌等の催し有べし、窓の簾障子杯可有用心也、

〔茶之湯六宗匠傳記〕^四月之茶之湯之事

一月は何れもあれ共、分て秋八月十五夜を名月とて、詩にも歌にも賞翫する也、又九月十三夜の月を名月とて、分て茶之ゆ之時は大事印可習也、名月之夜はさしきに習有、月を賞翫故、床にも花も掛物もかくることなし、爐に釜かけおき、扱月よくば、腰掛に圓座を客之かずほど敷おく也、扱客よび入てい主水こぼし持出、先^ツ薄茶をたつる也、此ときは座に火不出、勝手にたか^くとらうそくを立べし、其あかりにて茶をたつるなり、客三人あらば三服たて、一服はてい主吞べし、其後うす茶をまみひ、扱炭入持出て、すみを如常する也、其時はらうそく持出べし、扱夜食を出すべし、夜食濟に手水に立べし、扱數奇屋へ入濃茶たつる也、總くわし出し禮云立也、是も印可之大事なり、常のまかたとは大にちがひ候、印可ケ條之内也、

花會

〔南方錄〕^三花之會附送花花持參名花

花の會とさして云事まれ成べし、花を送り、又は客衆花持參の事もあり、花入にいくるやうに、下葉杯取のけて、こしらへ過したる惡し、名花杯求めて會を催す事も有べし、

名水會

〔茶之湯六宗匠傳記〕^四名水茶之湯之習之事

一名水と云は、京にては宇治の三の間の水、柳之水、た^ゝす水、尼寺之水、さめがい之水、惡王子清水、小柳水、菊水、大坂にては天王寺水、龜之水、江府にては井伊の清水、御茶水など、云水は上水とする、是を釜まかけおけよ、^略○中田舎にても能水には金氣おもみうつりがもなきを上水とする、かけることは前に出たり、それを見れば、^略也、手前には替ことなし、湯にて乞出し吞べし、か